



トコジラミの復活？

トコジラミと言う虫をご存じでしょうか？以前は「南京虫」と呼ばれていた虫で、ベッドなどに潜み、人の血を吸い、激しいかゆみの被害をもたらします。「シラミ」と名前に付いていますが、「カメムシ」の仲間です。戦後直後は不衛生な場所や公衆の場などでふつうにみられていました。しかし、1964年の東京オリンピックのころを境に激激に減少し、近年では、存在すら忘れられる状態になっていました。しかし、2000年頃から被害報告が徐々に増加し、最近ではトコジラミが復活したと言われるようになってきました。

このトコジラミの復活の要因として、『旅行カバン伝搬』と言われる海外旅行者による持ち込みが挙げられます。近年は交通手段の発達により海外との往来が活発になり、さらに、人への害が少ないピレスロイド系殺虫剤への傾倒や殺虫剤自体の使用の減少も寄与して、トコジラミの復活を招いたと言われています。

では、トコジラミは、人にどのような害をもたらすのでしょうか？トコジラミの吸血による直接的被害は、吸血による激しいかゆみや腫れであり、症状は4~5日間持続します。しかも、刺された時の痛みはほとんどなく、多くの方は気が付きません。さらに、このかゆみなどの症状は、トコジラミの唾液に対する抗体反応であるため、トコジラミに刺されて2回目以降に初めて症状が出ます。そのため、トコジラミの被害を訴える人は、トコジラミの被害が拡大している海外からきた外国人や海外渡航歴のある人、年長者が多いです。このようにトコジラミは人の血を吸いますが、蚊のような病気の媒介は今のところ知られていません。間接的な被害としては、経済的、精神的被害が挙げられます。経済的被害としては、駆除のための費用や、ホテルや旅館では駆除の際に一部、部屋の売止め（営業ができない部屋）が生じること、風評被害などがあります。精神的被害では、一度被害にあうとまた刺されるのではという不安感から不眠症などを引き起こすことがあります。さらに、訴訟大国と言われるアメリカでは、ホテルがトコジラミの被害にあった宿泊客から訴訟を起こされ、その示談金として15万ドル（日本円で約1500万円！！）が認められる事例もあります。ホテルだけでなく賃貸住宅でも家主と借入人との間での損害賠償訴訟のケースもあるようです。このような訴訟問題は、今後日本でも他人事ではなくなるかもしれません。

トコジラミの駆除方法としては、通常は殺虫剤による駆除が一般的です。しかし、トコジラミはゴキブリと比べ薬剤が効きにくく、さらに近年では、駆除に良く使用されている殺虫剤に対する抵抗性の発現も報告されています。トコジラミは壁や家具、畳の隙間などに入り込むため、物理的に駆除が難しいのですが、この殺虫剤に対する抵抗性の発現は駆除をさらに難しくしています。そこで最近では、薬剤による駆除だけでなく、アメリカなどで行われている、熱による殺虫駆除方法が注目されています。

トコジラミの駆除は、生息場所を特定し徹底的な駆除が必要となります。片手間の駆除では被害が長引きますので、プロによる駆除をオススメします。弊社では、畳や絨毯、寝具に熱による殺虫処理ができる乾燥車（裏面でご紹介しています。）をご用意もできますので、トコジラミの駆除について、是非ご相談ください。



トコジラミ 成虫

調べてみました！



もしかしてトコジラミ？トコジラミを探すには？
 激しいかゆみと腫れの症状でトコジラミによる吸血が疑われ、部屋の中にトコジラミがいないか探すポイントは、ズバリ、糞です。トコジラミは生息する場所には黒い粒状の糞が大量につきます。基本的には吸血しやすい場所と言う事で、ベッドや布団がひかれる場所を中心に、天井まで含めた部屋の四隅、ポスターの裏や家具の引き出しの裏、壁や柱、畳の隙間など暗くて狭い隙間を探してください。ちなみに、日本より被害が多いアメリカでは、特別な訓練を受けさせ、トコジラミの臭いを嗅ぎ分け、検知するトコジラミ検知犬がいるそうです。